

花から実へ

まとめプリント

重要語一覧 がく 花びら おしべ めしべ 花粉 (かふん) 柱頭 (ちゅうとう) 子房 (しぼう)
胚珠 (はいしゅ) 受粉 花粉 柱頭 実 種子 子房 胚珠 両性花 (りょうせいか)
単性花 (たんせいか) 雄花・雌花

学ぶべきこと

Lesson 01 花の基本的なつくり

重要語：がく | 花びら | おしべ | めしべ

- 花の基本的な4つの部品を、外側から順に挙げよ。
- 「がく」「花びら」「おしべ」「めしべ」の4つである。
- それぞれのはたらきはどうか。
- がくはつぼみを守り、花びらは虫を呼び、おしべは花粉を作り、めしべは花粉を受け取って種子の元を育てる。

まとめ：花は「がく・花びら・おしべ・めしべ」の4部品からなる。

Lesson 02 おしべとめしべのつくり

重要語：花粉 (かふん) | 柱頭 (ちゅうとう) | 子房 (しぼう) | 胚珠 (はいしゅ)

- おしべの先端で作られるものは何か。
- 「花粉」である。先端のふくらんだ部分は「やく」と呼ばれ、ここで花粉が作られる。
- めしべの先端の部分を何というか。
- 「柱頭」という。ここに花粉がつくことで受粉が始まる。
- めしべの根元のふくらんだ部分を何といい、その中には何かがあるか。
- 「子房」といい、中に「胚珠」が入っている。子房はやがて実に、胚珠は種子になる。

まとめ：おしべは花粉を作り、めしべは「柱頭・花柱・子房 (中に胚珠)」からなる。

Lesson 03 受粉のしくみ

重要語：受粉 | 花粉 | 柱頭

- 受粉とは、具体的にどんなできごとか。
- おしべで作られた花粉が、めしべの柱頭に運ばれてつくことを「受粉」という。
- 花粉を運ぶ方法には、どんなものがあるか。
- 主に「虫が運ぶ（虫媒花）」「風が運ぶ（風媒花）」の2つがある。アサガオやヘチマは虫媒花、イネやトウモロコシは風媒花である。

まとめ：受粉は「おしべの花粉 → めしべの柱頭」のできごと。虫や風が花粉を運ぶ。

Lesson 04 受粉のあと — 実と種子ができる

重要語：実 | 種子 | 子房 | 胚珠

- 受粉のあと、子房はどうなるか。
- 大きくふくらんで「実」になる。
- 胚珠はどうなるか。
- 「種子」になる。種子の中には次の世代の植物（胚）が入っている。
- 受粉しなかった花はどうなるか。
- 実はやがてしおれて落ちてしまう。

まとめ：受粉 → 「子房 → 実」「胚珠 → 種子」へと変化する。

Lesson 05 両性花と単性花

重要語：両性花（りょうせいか） | 単性花（たんせいか） | 雄花・雌花

- 1つの花におしべとめしべの両方がある花を何というか。
- 「両性花」という。アサガオやアブラナがその例である。
- おしべだけの花とめしべだけの花が別々になっている花を何というか。
- 「単性花」という。おしべだけの花を「雄花（おばな）」、めしべだけの花を「雌花（めばな）」という。
- 単性花の代表的な植物は何か。
- ヘチマ、カボチャ、キュウリ、トウモロコシなどがあげられる。

まとめ：1つの花におしべとめしべがそろるのが両性花、別々なら単性花。

Lesson 01 虫が花粉を運ぶしくみ

重要語：虫媒花 | 蜜（みつ） | 花粉団子

- 花が虫を引きよせるためにもっている特徴は何か。
- 鮮やかな色の花びら、甘い香り、栄養になる蜜などである。
- 虫の体にはどうやって花粉がつくのか。
- 虫が蜜を吸う間に、体の毛などにおしべの花粉が自然にくっつく。それを他の花に持ち運ぶ。

まとめ：虫媒花は「色・香り・蜜」で虫を引きよせ、花粉を運んでもらう。

Lesson 02 風が花粉を運ぶしくみ

重要語：風媒花 | 花粉の量 | 花粉症

- 風媒花の花粉にはどんな特徴があるか。
- とても小さく軽く、量がきわめて多い。風に乗ってかなり遠くまで飛ぶ。
- 花粉症はなぜ起こるのか。
- スギ・ヒノキ・イネ科などの風媒花が大量の花粉を空中に飛ばすため、それが鼻や目に入って体が反応する。

まとめ：風媒花は「軽い花粉を大量に」飛ばす。花粉症はそのしくみが原因である。